

# トライシティー やすぎ

ICT(情報通信技術)を活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

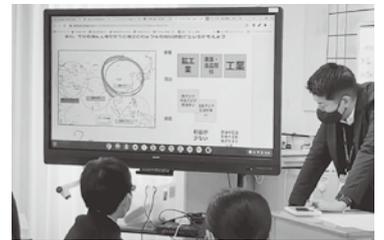
## 情報を活用する能力を 育んでいます

第一中学校の2年社会科で「アジアの国々」を学ぶ単元の総まとめを行いました。急速な経済発展や人口増加により変化するアジア州の地域的特色を整理し、考えを深める授業。「アジアに進出する企業としてより有利な地域は？業種は？その理由は？」など、学習課題を掲げ進めていきました。



▲グループ内で意見交流する生徒。

担当の先生から生徒のタブレット端末に関係する複数の資料が送られ、生徒はそれの中から情報を選択し、個人の考えをまとめます。その考えをタブレット端末のコミュニケーション



▲電子黒板を通してグループの意見を表示し共有。

ンアプリにより意見交流しながらグループの意見としてまとめられます。その後、それぞれのグループが独自の意見を電子黒板に表示しながら説明をしていきます。タブレット端末を一つの文房具のように使い、情報を収集・整理・分析し、楽しそうに意見交流をする姿が見られました。

全ての児童生徒が手にするタブレット端末やインターネットの活用は、単なる個人の趣味や娯楽のためのサービス(遊びの道具)を超え、これからの社会をよりよく生きるために必要な手段になってきています。子どもたちが情報を活かす能力を学ぶため、学校生活や日常生活でICT機器の活用を積み重ね、学校と家庭が協力し育んでいくことが大切だと考えています。

### 問い合わせ

学校教育課 ☎23・3180

和鋼博物館は「たたら総合博物館」として、平成5年4月に圏域のたたら文化を幅広く紹介するため鉄の道文化圏の導入と案内館(ゲートウエー)の役割を担って開館しました。

日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は、優れた鉄の生産だけではありません。原料砂鉄の採取跡地を拡大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然とが共生する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。また、鉄の流通は全国各地の文化の産物をもたらし、都のようには華やかな地域文化をも育みました。

## 新連載 日本遺産を巡る たたらの音色

～安来・雲南・奥出雲町 鉄づくり千年が生んだ物語～



▲和鋼博物館では4月29日(金)祝～5月15日(日)に日本遺産の企画展を開催します。

なく紡がれています。安来市・雲南市・奥出雲町の3つのエリアにまたがるストーリーとして平成28年に日本遺産に認定されました。安来市とたたらはとても深い縁でつながっていますが、中でもたたらへの信仰、そして港町、安来節、大きな河川の下流部における新田開発、これらはいずれも安来市固有の誇るべき文化遺産です。来月号から構成文化財を紹介していきます。

### 問い合わせ

和鋼博物館 ☎23・2500

